

講義回数	講座名	タイトル	東洋医学概論対照目次 (ページ数)		
			第1節 東洋医学の沿革 (10)	I. 東洋医学の歴史 3-12 (10)	
①	基礎理論 (13回)	人体の見かた	第2節 人体の見方 (5)	I. 人と自然の統一性 13-14 (2) II. 有機的な統一体としての人体 15 (1) III. 虚実と標本 16 (1) IV. 個に対する医療 17 (1)	
①		人体の見かた	第3節東洋医学的治療 (11)	I. 治療論 18-20 (3) II. 治療法 21-28 (8)	
②③		精・気・血・津液	第4節日本の東洋医学の現状	I 日本の資格制度の特徴 29-31(3) II 東洋医学的視点の重要性 32(1) III 現代における東洋医学の多様性 32-36(5)	
④		神	第1節 生理物質と神 (37)	I. 生理物質 (精・気・血・津液) 38-62(25) II. 神 62-67(6) III. 人体における陰陽 68-73(6)	
⑤～⑨		蔵象	第2節 蔵象 (76)	I. 蔵象学説 74-76(3) II. 五臓とその機能に関連した領域 77-126(50) III. 五臓の相互作用 127-141(15) IV. 六腑の協調関係 142(1) V. 全身の気機 143-149(7)	
⑩⑪		経絡	第3節 経絡 (12)	I. 経絡の概念 150(1) II. 経絡の機能 151-152(2) III. 経絡の構成 152-156(5) IV. 経絡の病理 157-160(4)	
⑫⑬		病因病機	第4節 病因病機 (20)	I. 病因 161-170(10) II. 病機 171-180(10)	
⑭		診察学 (5回)	陰陽・五行	第3章 東洋医学の思想 [19]	第1節 陰陽学説 (6) I. 陰陽学説の基本 182-185(4) II. 東洋医学における陰陽学説の運用 186-187(2)
				第2節 五行学説 (13)	I. 五行学説の基本内容 188-190(3) II. 東洋医学における五行学説の運用 191-200(10)
⑮		診察学 (5回)	望診	第1節 望診 (12)	I. 神 202(1) II. 色 203(1) III. 形 204(1) IV. 態 205(1) V. 舌診 205-212(8)
			聞診	第2節 聞診 (6)	I. 声診 213-214(2) II. 五音 214(1) III. 五声 214(1) IV. 呼吸 215(1) V. 発語 216(1) VI. 異常音 216(1) VII. 気味 217-218(2)
⑯			問診	第3節 問診 (31)	I. 問診の進め方 219(1) II. 主訴 220-222(3) III. 基本的問診事項 222-233(12) IV. その他の問診事項 234-248(15)
⑰			その他の問診		
⑱	切診		第4節 切診 (19)	I. 反応 249-251(3) II. 腹診 251-254(4) III. 切経 254(1) IV. 経穴診 255(1) V. 脈診 256-265(10)	
			第5節 四診合参 (4)		
⑲	弁証論治 (4回)	弁証	第1節 弁証 (16)	I. 弁証方法 270-284(15) II. 標本と主客 284(1)	
⑳		論治	第2節 論治 (24)	I. 治則 285-288(4) II. 治法 288-298(11) III. 治療法の概要 298-306(9)	
㉑		弁証を進め方	第3節 弁証論治の進め方と証の決定 (5)	I. 弁証の進め方 307-311(5)	
㉒		症例トレーニング	特別症例	症例の弁証解説を行い、実践的な弁証論治の力をつける	
㉓	食養生の指導方法	特別編			
㉔	施術への活かし方	特別編			